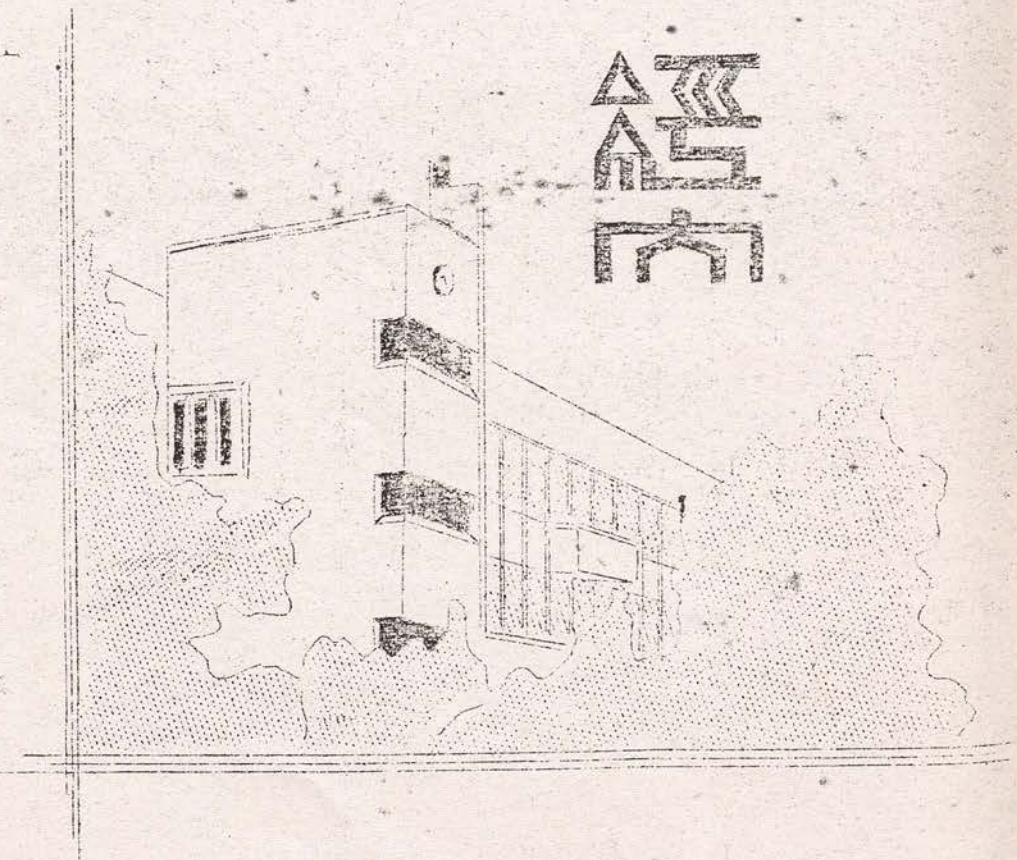


大阪經濟大學

同窓會報

第貳號

經濟



大阪經濟大學同窓會刊行

目次

大阪經濟大學祭足す	一頁
外山文二君の最後	一頁
税制改革の意義とその必然性	二頁
現在貿易界の暗い断片的裏面	五頁
大阪經濟大學同窓会	七頁
二十三年度決算表	八頁
ペニシリンの話	八頁
母校だより	一頁
同窓会のうごき	一頁
編輯部の構成	二頁
貴方は今何処に	一頁
アメリカの就職難	一頁
鏡	二頁
金曜日のひと	二頁
幽霊	二頁

大改経済大學 養足す

母校と同窓会が美しい協力によつて、いち早く認可された「大改経済大學」は、今春養育のスタートを切った。志願者の数や定員数に満たない新制大學が多い中に、「大改経済大學」は、五人の名といふ多数の志願者があり、その中二六〇名に達し大學二年入學が許可された。この他大學二年入學者九〇名、延事二年入學者五〇名を加えて、初代校長照正先生の指導のもとに、四月廿日入學式が挙行された。そして早稲田大學四月十五日から、左記の講義を以つて授業が開始された。まことに順調な起り出しといつて可いであらう。黒正先生は、毎週金曜日自らの教壇に立つて經濟政策を講ぜられてゐる。戦火に見舞はれた後進の青年の氣をいさへ、行きて來る市井の青い血が今迄田舎田舎でいた瑞光原野にそそぐの近代味をなすわけてゐる。母校はますますのびて行つてゐる。

寒涼の秋に贈る 中山文二君の最後

断頭日に綴る 祖国復興の四字

終戦以來既に四年、敗戦により混亂の心底に墮落された日本人と云ふやうな反省と自己の周囲を顧みるや落を得て來たが、秋に來り戦犯の罪に問はれ北條格手外にあること三ヶ月余、漸く青天白日の身となつて東郷の門を出て來た時、旅費に乏しく、はかうするがつかつては同心堂に金ぐれをせよと同心堂の一人華入回卒業生外山文二君の天晴忠告なる提議が伝へられわが精神のふといとて異域の地に置きかほるを知り同心堂の提議の如く折るの言葉を一人的みではあるまい。以下西条誠孝へ和歌 うへ以下大阪新聞八月一號の昭和新聞出身で、一つの風呂敷包みと一山井東屋町五〇九ノ十一日附記事より披露 外山元中尉(セセチ) 冊のコンサイスだすだがつる處に従ひ外山君 本東の親と姓を同一といつた。彼が續き つたをて夜昼再念にの最後を詠言して見よ 人の青年時代がいたく れて入つて來た時には コンサイスの一字一句

の暗記をつづけてゐた 外山元中尉は相と交う せしと指して行つた。 理するふりをしてぞ 彼が同じく死刑の判決 押迫い足かせを引き 遂に最後の日が訪れた。 ンを穿つた。あつた。 決を受けた他の死刑囚 けりながら歩いてゐた。 顔色一つ走へない彼は あつた。出て來たのは は大抵死刑の示公平を 部下二人も同様に被せ 洗いたてのシヤツに着 一枚の白いハンカチで 鳴らじ、上訴手続に基 けていたが彼等の語に 腹を独房から足も運入 ある。小さく折りた 中になつてゐるが、彼 通敵一の評判のよい横 に向つて一つ一つ丁寧 方へ「祖国復興」の四 一人は従軍として相違 絶的な存在でしとし に向つて一つ一つ丁寧 方へ「祖国復興」の四 はず軍語の暗記もつづ 念々刑の執行が近づ だ。顔が思えないう 文をだけ成達事に記さ けてゐた。大伴軍法 云ふことだつた。 へ、刑の執行もして 文をだけ成達事に記さ 進で判決があつてから いた腹縁なりで私運は だ。顔が思えないう 文をだけ成達事に記さ 六十日か百日かといふ 口何の遺言をいふと 聞えてくる。恐ろしく 責任を当惑する人であ 刑の執行があるからで 云ふと「見付かるとい を懸つては部下の兵 あると信じて死に ろから死刑囚は獄に 云ふと「見付かるとい を懸つては部下の兵 あると信じて死に 煉獄する。運動の時同 に向つておくと、何うと同時に私は独房 へいたものは祖国の復 にはあつた。だが、監視の兵から「筆を握 へかきこへて遺言を整 興であつたのだ。

税制改革の意義と必然性

第十回生 杉井貞治

我國經濟の民主化は必然的に、その第一歩として、租税制度の改革を、この第一歩として、所謂一昨年に於ける議會所得税一本連の形式を採用し、簡易税額表及び申告税制度を採用したのであります。すが、經濟の民主化は更に我々に根本的な租税制度の建通を要求してゐるものであります。ドッケ公使の帰國後、さやや博士の登壇は、まことに此の事を物語るものであります。然るに何故一時年の税制の大改革が未だ日淺くして則ち戦争中の經濟を救へておけないのか即ち今

暗處的裏面

第七面生 比二金

又々國艦の信用嚴重等のみでその一鱗片を知る
及びあるからである。殊に戦争開始から今日に至
る五、六年の空白は何を以てしても埋め得ない、
之が海外演説の熱望されて居る所以である。

い双義である。商道徳の虚顔どころか商道徳の誠意が之である。或る面々としてある論議合に於て大體下記の如き事を語つたのを覚えてゐられる人々のあう。

使用した、而して吾々は
 と呼ばれる文の価値ありや？之は廣
 様の判断にお委せむよう。

商賈の積取りは勿論争を起す事あり
にしかば横徳、中傷、裏切等多きもの
なり。則こそ有利に導之属に就く相
手を聖除せんと無根の事を真しやう
に書きぬべし。無記名書、衆怒致し
贈收貽弊々教奉に暇なき程の愚行歟

貴方の現在お住いの場所を
同窓会に通知済みでせうか
貴女の知人は！
合莫諾兄諸姉の住所移動を
追つて名簿整理のため目下
名簿作成係が汗だくです。
御手紙ですが未だの方は同
窓会編輯部長篠原正樹一様
下さい。

幣正に裏面に廻れば石巻銀行である。又最近皆孫が新聞紙上で御覽になり又、新聞種となつてゐる後へへ公使と前社との結託に依る独断的の皮孟獲解は戦時中の軍需が資本家と結託したに等しいもので確実すべきものである。

最近新聞種になつた事件には他らずと云つて良い程大商社の名が刊記されてゐる。大商社と官公吏の結託、贈收賄、今年になつてかうでさへ相当地獄やしい、暴露されたりしたのでさへあつたのである。愚は氷上の如しと云ふ紙に未だ／＼表はれてゐないものが多々あると見ては違見ではなかつた。之も一つの裏面であり通商手続の一例である構はない話だ。

貿易商は最近になつて、新定金つて幾星らずと云ふ事を皆さす口にする、これは實はピンタリと現るをさし表はしてゐる何故か？計算すれば儲かつてゐるのに金がない、之は一つの原因として政府と佛金の匯滞がある。St. Paul (Government & Government Bank) 即ち政府商貿易の代符ややつてゐる貿易商は政府よりの未収金のない商社に基らゐるから、最近では年々なつたそれでも事務手続が複雑であり又

貴方は
何処に

斯る事を書いてゐると誰はいつてゐる、
い最近に正しい、新しい、
易界の夜明けが来ることを懸望して筆を置く。

理由は明記しないが支那を以てその島に金利と云ふものがないのが一つの原因である。又 Fleet Race の合法的値下げ (Below Price) とは現在貿易が統制下にあり無きな競争を避ける爲に政府に於て最低価格を明示し、それ以下に値下げをする事を禁じて居る。最低価格の事を云ふによる、
之が現在貿易界に於ける裏面の一面である。

ペニンリンの話 第十回生 武内美次

終戦後一躍時代の寵児として我が國治癒隊にフローズ・アツアにペニンリンについては、誰かが一度や二度は必ず耳にし一応は常識の様に成つてゐるけれども、實際には意外その常識程度を御存知ない方が多い様に思ふ。それらので、簡単にペニンリンの話を書いて見たいと思ひます。

ペニンリンは約三十年前の一九一八年に、英國の科学者フレミング博士によつて発見されたものである。彼は葡萄球菌の繁殖状況を研究中、或る部分が何物かの爲に繁殖を妨げられてゐるのを認めて調べて見ると、蒸気の中い夏小環境に生れた青かびによつて食ひつゞされてゐることを発見したのであります。科学的な発見は従つてさうである様に、偶然、本宅に偶然にこのペニンリンは発見さ

れたのであります。そこでそれは他の殆どの医薬品に如く数種の原料を配合して作る所謂「化合物」ではなぞ、丁度味噌を作る様に、就種から一面に種を培養する様にペニンリンと言ふ青かびを培養して、それを薬として使用するのであります。

フレミング博士がその青かびにペニンリンと云ふ名をつけてから約十年間、それは医学界にも全然向應にさ水ず殆ど忘れかけてゐる時に戦争が起り、抗菌性薬物が医界の重要となるに及んで始めて之に對する関心を振められるに至つたのであります。尚もなぞロンドンに戦火が迫り、化学者達は思ひきつてアメリカに渡つて研究を続けることを決意しました。それは一九四一年、今より八年前のことであり、當時は未だ五人の

患者に実験したに過ぎず、その二人に對しては失敗してゐると言ふ状態でありました。

研究がアメリカ合衆國に渡つてからは、医薬品の発見に對して積極的な関心を以て政府當局が助成と言ふ、史上且つて見なかつた政府の援助と細菌学者の協力によつて驚くべき急速の進歩を通じて、今次大戦中に於ては、その役目にあつては軍務に服した人々の生命を救ふ、救えられぬ程救つた迄に達しました。

我が國に於てもフレミング博士の発見以来、一部の化学者達によつて研究が進められてゐたものの、青かびの一種が葡萄球菌の繁殖を妨げると言ふ現象は完成されたもの。而して同時に連絡は断たれ戦時中には終へ、それこそ治療界に役立たせる程の生産は出来なかつたのであります。

終戦後、昭和二十三年の初めに、アメリカの権威者フオースー博士

一經大新圖表

○一 般教養科目

[illegible]

長	富	平	河	北	新	清	本	井	虎	茂	原	渡
溪	永	田	原	岡	宮	水	田	上	尾	節	商	迎
政	祐	隆	吉	泉	健	孝	利		正		鶴	宗
壽	治	夫	次	造	二	郎	夫	清	助	徹	壽	太郎
政	交	社	商	外	經	簿	合	工	買	勞	法	憲
治	通	合	品	書	管	計	計	業	局	働	學	
學	論	政	學	總	學	學	學	經	論	經	民	法
				論	論	記	論	濟		濟	治	
								講				
								義				

☆ 旧職員の消息

山口市松ノ木町一七
專 木 正 次
高知縣吾川郡伊野町
上 田 藤十郎
東京市中西野区江古田庵丁目一七六
小 泉 功
岡山府岡町寺屋敷三
中 島 三 郎
勞働委員會
小原建設株式會社
松山商科大學教授
貿易公團

田校援助

原 秀夫 (四回) 學校庶務課長
 岡 則夫 (六回) 之木友之
 小 坂 稔 (七回)
 花 井 玉 三 (十回)
 美 馬 信 弘 (十四回)





臨時總會開催

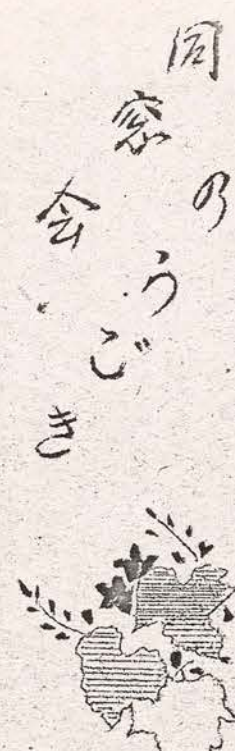
去る四月十日飯沼百賀亭に於て本年度同窓会臨時總會が開かれ雨天にもかかわらず出席者百五十名を数へる盛況を呈してあつた

三回世役員の報告の辞につづき黒正初代校長の御挨拶があり大北校長の大層昇格を通報を終つて議案に入り、理事長津原卓弥氏議長席につて

△同窓会ホール設置の件 (五回 前田重雄案)
毎月第一土曜日を毎一隔より御所前迄遊歩一丁日野村心丸五階如水会俱樂部の一室にて定期的に開議する。

△会報発行の件 (五回 前田重雄案)
同窓会報を毎年二回発行する

△同窓後援会 (三回 渡辺重雄案)
右三件を本日の第一議題として可決、これに議案を終り名百賀、神戸、衣笠各支部より追記報告あつて午後五時過ぎ会を閉じたり。



東海支部總會開催

終戦後いち早く結成を見た東海支部の本年度總會が、四月廿九日名古屋市中興業銀行支店において開かれた。会員十数名の外、黒正、大北両先生は東京からの帰途出席され、大坂からは藤原先生が、福岡からは中島元助教授が参加され、黒正先生の趣味豊かなお話しがあつて、五時前盛會を閉じた。



第三回卒業生より

新制大学として隆々と発展しつつある母校の近況を聞き命更なる幾多変遷波瀾のあつた吾々在學當時を懐古し今昔の感に堪へず語数段一吐とあつてこの卒業生を立ち得られたい精神は厚く創設当時の黒正校長の理想と在學時のあり難きが服々として流れてゐるものを感じ誠に喜しく感激の地ありませぬ。更に改めて御努力を感謝致しますと共に今後益々充實せる大学とする爲には物心両面に亘る後援の必要なる事を懇懇致してある次第であります。

幸ひ過敏臨時總會に於て母校維持会が結成され又去る五月の役員会に於て之が具體的推進運動が展開されました事は誠に御同慶の至に存じます。

吾々第三回生も同窓会より六月より毎月履修を同じふに於て反の距離を固り保せて母校援助の一端に寄與致す。至会々を結成米永く之を維持出来得れば

全国的に之を及ぼし度いと思つてゐます。目下会員は左記大阪在任者十八名でありますが阪神間には三十名近きの同期生があるものと思はれ迅速増加に努めてゐます。

現在の世情伸々思ふに及ばず戦時政治の伸々その影響の及ぶ所多し申すに及ばず思つてゐますが、少くとも精神的には全員通判に達してゐるもの之は必ずしも將來何とのかを知らずその確信してゐる次第であります。

申すまでもなく各回共斯る實際運動は実行されてゐると思ひますが、之の横の連絡に同窓会の組織のゆるがせの線を出せば始めて生きた同窓会の運動が出来るものと思へます。

同窓会各々の三三金金はほんどうに自由の集ひでありまして会費も一〇〇円以上自由で差支えず毎月一回必ず同窓会毎週必ず誰か専任者駐の近況を報告すること、近々娯樂施設のある家に入る会場を遊覧する等してゐます。

同窓会で同窓生の方がまだ担当者の来る事と存じますから至急御連絡願ひ次回からの御出席をお待ちしてゐます。本誌を借りて御願ひ申します。

第三回卒業生

渡辺重雄、磯野 春、中島謙次、平岩正己、三原英武、河村孝忠、辻正 家、大石正雄、河村正信、法廣重雄、

若田忠敏、田辺五郎、藤澤祐順、安達國助、中村史郎、河野盛忠、橋井百介、特野文夫、

連 路 先
京阪神急行電鉄好口車輦部 渡 辺 重 雄
大阪市南區 協同建設社 磯 野 春
大阪市福島區下福島一ノ四 中 島 謙 次
大阪日産自動車社 中 島 謙 次



第十回生同窓会開催

六月二十六日十回生同窓会が北浜如水会で開催された。出席者を得た。

山本喜久郎、田和茂三、山口定弘、佐野珠太郎、服部友一、石賀久雄、岸本泰男、榊井貞詮、川島孝雄、曾島敏雄、山田安久治、鹿井一、武内美次

母校より藤原、高田両教授の御出席を頼はし、各校の近況につき種々御報告を拜聴、更に過日同窓会幹事会にて決定されたる母校維持会々費の徴集を請ひつき協議した。出席は少数なるも進々と同期生の消息が判明有意義に終了した。御出席になられなかつた諸君もこの記事を読んで多少の物うが母校宛に御持

込書を御送り下さる様に幹事より特に御願ひします (武 政 記)

第十回同窓會報告

恒例の第三回同窓分は、四月廿五日土曜日、大和銀行北沢支店五階の如水分に於て催され、此の日は朝からの雨で、春雨とは言へない程の降りだつた爲め、主催者側の候等は、出席人員に對し大いに見を使つてゐたのですが、フリーランサーが多かつた爲め、キヤンセル組の欠員をカバーする事が出来、出席全員二十一名、先生方は大北藤原、梅田、石川の諸先生で、殊に、席なかばに於て石川先生の演説論あり、筆者の教へただけで、「僕の妻は……」と言ふ言葉は十数回あつたと記憶してゐます。同じ有つたら先生の様な愛妻家を選ぶべきでせうね、更に藤原先生のテノール独唱、花子嬢のソプラノ大北先生の若き日の想ひ出、梅田さんのロマンズ、その他脱走多々、ソーセーヂとパンの整理を胃の弱に終る迄四時間余り、卒業後一年、お稽古に、準備に、全てブルーインの爲めの日々から解放されて、学生時代の気持ちに解けた平日をすごせたいものと思つてゐます。廻、今回は逸見さんの労を煩はす処多々、次回主催者は梅田、柴田、尾西、車口の四嬢にお願ひする事に決りました。亦席上会名の事について種々面白い名前が出たのですが、結局決まらないままに終り

ましたので、同窓生諸兄姉に振つて贈答し易い名前を次回迄において下さい。

徳島支部結成さる

かねて谷俊一郎君へ九回日徳島市西船場町二ノ八、倉庫配給公団徳島支局勤務、を中心に結成準備中であつた徳島支部は、八月八日徳島市に於て結成を了した。母校から大北、藤原両先生が参加され、会員十四名出席（公費現在数二八名）折角折角名物の盆踊に興趣満天、甚だ盛会であつた。支部長の決定は暫くおくれを見過ごす。

東京支部結成準備中

東京方面に於ては、過般来、藤沢市三石へ八回日神奈川県三浦郡三崎町東三三三（三）を中心、本部と密接な連絡をとりつつ、東京支部の結成が準備されつつある。廿玖名の会員が在京の筈であり、近々結成の運びに至るものと期待される。今後東京方面に脱出される方は藤沢市に連絡されたい。

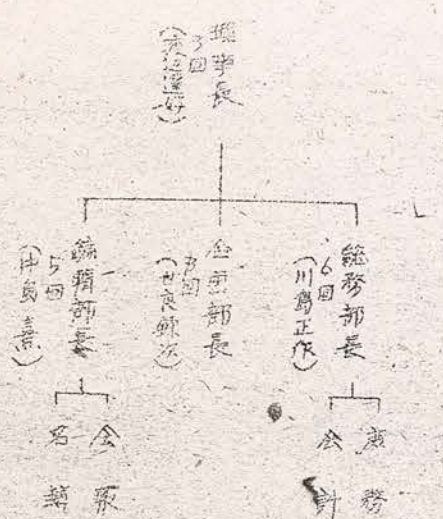
同窓會理事會開催

八月二十日午後五時より難波南衛ビル三階にて開催された日の議事内容次の通りである

- ◇ 昭和二十三年度決算書の承認
- ◇ 理事長交遊

市原現理事長は東京脱居のため後任として、三回渡辺達好君を推挙した。尚当日は市原現理事長事故欠席のため後日理事長の承認を得て新理事長の効力を発生する

- ◇ 会報第二号発行の件
- ◇ 会員名簿資料発行の件
- ◇ 大阪支部設置促進の件
- ◇ 同窓會事務分掌決定の件



大阪経済大学同窓會

昭和二十三年度決算表

自昭和二十三年四月一日起至昭和二十三年三月三十一日

収入の部	金額	金額
前年度繰入金	一〇三	五〇五
会費	一〇三	五〇五
利子	一〇八	四三七
合計	一〇八	九七三
支出の部	金額	金額
人件費	一	五〇〇
通信運送費	一	一四四
会費	一〇	五〇〇
会報発行費	一一	一一一
総会役員会費	二〇	三五二
支部補助費	七	七〇〇
一席貸出金	二六	〇〇〇
雑費	二	七〇〇
後期繰入金	一七	九五六
合計	一〇八	九七三

☆新理事就任

本部の事業活動の強化を図るため左記二名が今般理事に就任した。

五回生 中島 薫（大井証券株式会社社員）

七回生 中山 正健（岡谷銅器株式会社社員）

アメリカの就職難

第十四回 村井昭子

最近我が國も至極元原刻の災難から昔の中が大分不景氣となり、それに加へて行政整理、企業整備と大分職名の減退がたかまつてきたが、アメリカでは既に昨年未だよりから漸々ブームが株を越えて、更に人口の調査によれば、本年一月に失業した人達の統計は七〇万人に上るといわれ、アメリカの冬は失業者が増加する季節であるが、この数字は予想より多かるから高く、ブームは終つたといふ悲觀的見解の有力な根拠とつてゐる。

最近のライブ誌から、アメリカの失業についての実例を紹介してみよう。

インディアナ州アオト、ウエーに在るカースン君は、自らが、鏡に言はせると、何とせず、家に居つてゐるよりはましだといふことだ。

カースン君は職を求めて歩き廻つたり、毎月の勘定書に目を通したり、食卓越しに妻や娘さんを見つめる度に、ホト／＼と感してゐるが、こんな事は生れて始めての経験だ。ともあれ、カースン夫妻は現在アメリカの国民全に何等貢献してゐないことは紛れもない事実であつて、むしろその逆に彼等は自動車に十弗、料理店に五弗、ガソリンに十弗の借財を負つてゐるのである。

この実例が示してゐるように、アメリカは至極的に見て新しい時期に移つたとみることが出来る。ライフ誌の表現をかりて云へば「内容の財布の紐をとかせるための激しい競争の時期」廉価商品の時期「いらつしやい虎りの時期」換言すれば、現在這、ほとんど忘れられていた時期にはいたのであ

二十一年であるが、一九四六年陸軍から復員すると同時に、同イルの工員として就職、週給四十五弗を得、その後車軸工場に機械工に転じて、週給七十七弗にはなつた。而して、有給と云ふものがある。

彼は結婚し、新妻と共に港家住心ではあつたが、一戸を構へて居るに足るだけの賃金で、この生活はアメリカで生活にとつて、まことに結構なことだ。カースン夫妻は、トープ、冷蔵庫、食用セット、ラジオ等も新調したほか、お七の家のミシン、五弗のセコハンの新座敷も購入した。又出産の所は医師と病院に一〇〇弗を支拂い、子供のため一五弗の高椅子、十五弗のプレイヤン、三〇弗の鏡付鏡台も購入した。更にカースン君はボートスノウの井まで投出して、六八七五弗のサツシロの新車を手に入れた。尚、当時カースン夫人も共済で週給五五弗を得てゐたので

ある。その後昨年十一月になつてからは就職したが、すぐ別の仕事をみつけた。お七も新しい賃給は週給七十七弗ではなかつた五五弗に過ぎなかつた。その上、その仕事も僅か一月でお終ひになり、カースン夫人も一月後には解雇される始末で、爾来御二人は今日迄新職を探してつづけてゐる。

二人は教へ、切札の程州の職業紹介所へ足をこんだが、そのつど、今日はあると云ふといわれるのがあつた。街中のありとあらゆる工場や機械屋へ就職の申込をしたが、これらはいづれも人を雇ふどころか、裁縫をやつてゐるのだ。といふことが分つたにすぎなかつた。斯うな故は新聞配達の所、商店の店員に付けたが、この仕事では一週二〇弗から一五五弗が得られるに過ぎず、とても生活を支えるに足りない。新聞の仕事をやつてゐるために、失業補償金をもらう資格を失つた

鏡は不思議なもので、金さうまゝ出来てゐる、これ程簡単に理化学の応用した精巧なものは、よくと見当らない。今鏡のない世界を想像して御覽全と奇妙なものだ。自分が一体どんな容姿をしてゐるか全然知り得ないといふのは、人なりのだらうか、幸に人間には自己を知る自分を知らないと云ふ属性が本能的に備へてゐるから如何なる手段を講じてでも考へ出すに違ひない、心から現在では鏡の如き簡単なこの精巧なる器物があるから、うちよつとその前に立てば、は、んこれと言葉であるといふ合点が出来、天向鼻を蚊不死の御顔と別に近いかからず時ありて己の不運を嘆いてすむや、この類な結構なものに相当するからあるかと云へば、

では非常な欲望があるにかかはらず、せつかちで、ぐぼらで、息遣ひ面があるから他人がやつてゐるだらうと不安を考へて放つてゐる。これが又鏡の厂史にも表はれてゐる様で、大昔などは澄んだ水面に己の端姿麗正なる姿を映して、もつて満足してゐたのである。青銅器時代に入つてやつとそれ磨きあげて寫す事を覺えた、この習慣が又恐ろしい長い同行は、未だのでもよき世代の娘さん達に辛棒にたどり及ぶと思ふ。現在の鏡の如く、自分の一顰一笑に到る迄、御覽に成れる様な顔なものは勿論向ふの光明であつて、それが明治初期文明開化に初めて輸入されて来た時は向懸となつたのであらうと思ふ。鏡が唐板硝子に硝酸銀を塗り固めると云ふ方法が發明せられて、鏡のその厂史にとり、茲に全くと

発展飛躍がなされ、この種鏡の普及と永續性が約束せられたと見られる。

この様に我々がちよつと目にかれ系にこぼる見廻品を初め我々の周囲のいかなるもの、たとひそれが労働生産物であらうと技術であらうと風俗習慣に到る迄、皆それ々、個々の歴史を有してゐるのであり、互に連関して相対的な発展の歴史を型造つてゐる筈である。そして、その過去現在の、歴史を考察することは、面白いのみならず非常に有益な事であると思ふ。自分の企業に於て取扱ふ商品の歴史を考へる事も、その商品の將來への発展の指針を與へる唯一のかぎではなからうか。

自転車にしても、あのタンホイザーがチープに空気を入れる事を発明した結果、自転車そのものが一段と善なり、実用的になり、商品価値を増するに致つた事は、論を俟たない、そして彼が一躍有名

になり資産家とも成つた。又眼鏡が耳に掛けられる様になつたのは何時頃かそれに依つて眼鏡そのものの商品価値に如何に使用した事か、等々そのものゝ歴史性の考察は如何なる立場にある人と雖も無益な事柄ではなからうと思ふ。

これ等、一連の發明改良発展の事實は、大かれ少なかれ十八世紀の産業革命を契機として、根本的にはそれに結び付けられて、大なる歴史の展開を背景として考へられる筈であるが、更に些細なる一物の歴史だけを抽象して考へても物事を歴史的發展的に考察する事が如何に大切であり、弁証法的理解が我々の日常生活をどれだけ助け、又切り離さず押さへて置かねばならぬか、そして、資本主義発展の偉大な母体ともなり延ともなつた産業革命が、又次の果に達すべき社会変更に於て如何なる生産関係生産方式の変化となつて現はれて来るかと言ふ事が今日の一つの大きな

課題を成すものと思はれる。一鏡が正直に我々の姿態を寫つす時、今一度眼を改めて、現実の社会を鏡の前に引き出して見たいと思ふ。

金曜日のひと

十四日生 かきひとしらす
八時四十三分、上新庄発の電車に乗るのですから、梅田行の車に淡路で乗り替へるのには、それから十分前後あつたことだと想ひます。そのひとに会ふのは此の時間の電車に限られて居るのです。それも金曜日以外のどの曜日に——会ひたいと思つて少し早めから電車に二、三台見すごした事もあるのですが、その人を見かけるのは、やはり金曜日だけなのです。それには、会ひ方が夢の如きのです。凡そ現実味のない、全く時代はなれのした、平安朝の頃の遊逸をするのです。会つて後、二、三日は「今朝は会へるだろうかし」と、夢を出る時分から心持らにじて待

のフラットに立つのですが、お話しした通り見かける日は限られて居るのですから、その裡に忘れるともなくそのひとの考へが頭から消え、丁度金曜日の頃は、全く忘れきつてしまつて居て、大層の駅で梅田行の電車に乗り込むでもその人の事は頭に浮かびやうもないのです。と、忽然とそのひとが現はれるのです。本を讀んでゐる暇をあげると、あけた眸にそのひとの姿が映つたりするのです。何気なくもつた肩の前の席に彼が荷物をして居たりするので、「今日の金曜日は例外かな」と、あきらめて、十三を再乗し、言へる為には降り立つた僕の直ぐ下ひからそのひとが降りて来たりするので、全てが僕の意識を惹き起した行動として彼は僕の前に現はれるのです。彼が「金曜日のひと」と言ふのは斯の如うな寂びなのです。金曜日に限つて会ひたいであり、ホその会ひ方が夢の如

に幻のひとと現はれる様うな仕方であらうからなのです。初めてそのひとと電車の中に見かけてから、既う二ヶ月にも成るでせうか。下宿の西側の窓をおぼろに梅田の白い花がたれ下つて居たのですから、六月もなかなかで、毎日の通学に乗り降りする電車の中がやゝ居ずらくなつた初夏の頃だつたと憶えて居ります。何時もの癖で坐ると嘔吐と嘔吐と試みではないのですが、開いた本に眼

大阪梅田から 大坂南通

昨十二月から大坂（南）通まで同の市バスが用通し、大坂市内から母校までの距離が非常に短縮されたが、この八月一日から南通が警察署前から南通まで直通バ

をこらして居ると、何かの事で電車急停車したので、前に立つて居る人のからだが大きくゆれては、いかに成つた人となとの間から向ふ側に坐つて居たその人が眼に映つたのです。瞬間、即ち人のからだはかちと位置にもどり、そのひとの顔はまた、人と人のおぼろ重なつた人垣の向ふに消えてしまふまじに、一夜雪つたそのひとの顔は、盲腸の底に隠さつてしまひました。

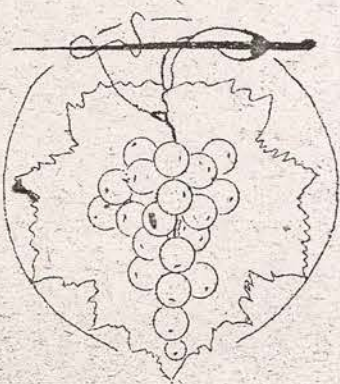
美人と言つてよい容顔の持ち主なのですが、個性のない白痴美的な感じを受けました。併し顔全体は立体的に出来て居て、肌の少ない眉と唇の間から直ぐ線を引き出したやうな鼻筋は、それだけで冷めた感じを与えるやうなのですが、小鼻のあたりから唇へかけての線が、兩頬のやゝもり上つたやうな曲線と美しくバランスがとれて居て、殊に唇が印象的だったので、印象的だと言ふのは、

近頃よく巷で見うける格うにさつ
く色どつて、その存在を明示して
居るじいふのではなく、寧ろ紅を
さしてゐるかないか解らない程な
めですが、何かのひょうしに目え
る白い歯、ハート型に割れ込ん
だ上唇と、やううけ口の感じを与
える下唇とに、神秘なものへの門
を想はせると言ふ意味で印象的だ
つたのです。静かな気風のひとな
のでせう。喧嘩な朝の電車の中で
いつも静かに本に眼を落して居る
か編物をして居るのです。立つて
居る時は、考へて居るのかいまい
のか判らない様は顔つきで、しふ
さ一つ仕舞う静かに吊革に下つて居
るのです。どうかしたはずみに
眸と眸が会ふ時があつても、そう
言つたひとにあり勝な頬を染める
と言ふ事もなく、然も端然と相手
を思かえると言ふ風でもなく、さ
うだ眼もとに秋風がたゆとうて居
るお顔つきで、無表情に再び眼
を落して本を読み続けるか、あ

スが申通し、今まで市内の東北隅の
不便な地にあつた旧校は大坂市の
支店と直接もつづくこととなつ
た。
所要時間 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百
前は二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

得られぬ口、口マンスを待た
ぬの格うに、全曜日の通達止の
要を、要としてそつと心の底に染
しんでおきたからです。
斯ういふある日の事、学校から
帰つた僕の机の上は、ウナギ、
大時四條で待つユキ、と書ふ電
報が置いてありました。其の日の
六時に京都の四條へ来いといふ意
味だとはすぐ理解出来たのですが
「ユキ」といふ名前を頭をかしけ
なければなりません。ユキ
キ、といふひとは二人知つて居る
のです。二人とも女のひとで、ど
うも僕を呼ぶすのに斯う言つ
たにすう氣を出すひとなので、
此の電報は僕にとり何の交へつも
ない、何時もの事なのですが、一
人は生駒のオに就うかにすいて居
て二人の田と成つて居るのですか
ら、兄を方角に改め京都へ僕を
呼び出すと言ふ事は京都へ僕を
考へられず、僕一人は京都のひ
となので、僕も読んだ初めはこの

ひと、直観したのですが、夏とは
言へ六時と言へば既う宵の口です
し、帰へりの事も考へれば未婚の
彼女がその様な時刻に僕を呼びつ
けると言ふ事も考へられませんか
で、一体「ユキ」とは誰なろうと
一時迷つたのです。元来樂天的
に生きてゐる僕の事でもあり、下
宿生活の気まゝも手伝つて相手の
ひとと判らないままに四條の駅に
降りたつたのです。(次号完結)



幽 霊

九回 太竹基弘

吾輩はいま瓦礫の巷の上を高く
或は低くとんでゐる。とんでゐる
といふよりも彷徨つてゐるといつ
た方が適切かも知れぬ。吾輩は長
い尻尾をヒラ／＼動かして、何処
か適当な宿泊所を探さぬものかと物
色してゐるんだが、住宅難の今日
親類の者ですら相済まぬ直平だ等
といふ人情紙よりも薄い時のこと
だから誰一人として泊めてやろう
といふ殊勝な輩はゐない。と、つ
て何時までも吾輩もとび廻つてゐ
る奴にはゆかぬ。又一相場の腹間
とび廻つてゐるので、大分身体も
疲れてきてゐる。考へてみると、
もう十二、三時間飛び廻つてゐる
ことになる。明らかな労働基準法
に違反してゐる。今の世の中で呼
吸してゐる連中は八時間労働だ
なんて云つたつて正味八時間働いて

てはおらん。その間に煙草をふか
したり、雑誌を読んだり、新聞を読
んだり、映画の話をしたり聴いたり
は逢引の時間迄求めたりして八時
間を利用してゐる。そして、さう
も仕事が出来なくはなると、まるで
仇にでも会つた時の様な顔をして
「アツ／＼」言つてゐる。こんな連中
に吾輩の如く十二、三時間も活
してみろと言ふ方が愚なこと位は
知つてゐる。人間なら手足もだる
くなつたから一と風呂あびて、既
給の残り酒がカストリでもなめて
みやうかと野望を逞まじくしかけ
てゐる時刻にもなつてゐる。だが
勢ひ泊め手がなくとも、ごら
から家宅侵入罪を犯さぬはならぬ
破目に立ち至つた。家宅侵入罪と
いつたつて吾輩の等はその処に延
チ／＼する節次同然の眼をもつ
た無公ハ公連中には勿論見へる筈
はないんだから顧るめんせんも

の大聖生産の賜かは知らぬが、力
まかせに押したとみへて、印の下
隅の方に印肉が馬鹿に食いぬに。
他の部分が壊れて、何処の神社の
製品かわからない。メード・イン
ジヤパンであることは確かだ。入
口でシエパートの代用品を勧めて
ゐるのだから少々敬意を払つてお
く必要もあるだらうと思つて、下
から上へ一度だけお札を撫でてお
いて侵入することにした。

入つてみて先づ驚いたことは、
贗物が十種類以上もあることだ。
そんな数字に驚くなんて今までの
本音に似合はぬ奴だと云はれるか
も知れんが、普通の十種類以上な
ら修養の出来た吾輩のことだから
オソレンやだ。しかし此の十種
類以上は厄方ばかりの十種類以上
だ。まさか片足ばかりの人間がこ
の数だけ居るのもあるまい。通
り庭の隅に立つてゐるが、こ
うまで入つて来た以上、座敷へ上
るのも、このまゝで居るのも五十

いてゐる。何か井戸の中にあるら
しい。そつと山の神の居るところ
から中を覗いてみた。山の神が不
意に振りかへる。まさか吾輩が後
へあるとに気付いたたのもある
まいが、それでもヒヤツとした。
山の神は丈入道よりは三寸程丈が
低い。その代り横中に入道が横に
一倍はある。この山の神が何かと
きりと井戸の中を物干竿をかきま
はしてゐる。井戸は吾輩の先達
氏が俗座を置れて居る所である。に
最通とした所である。吾輩は馬鹿
な若輩史もあつて、井戸から出
ていつて血を欺つて、再び井戸へ
御座るおそれと承つてゐる。
又古来から美人が隠遁する所は大
井戸に決まつてゐる。まかり違
つたつて井戸の下で隠遁した、なん
てことは古事記を讀んでみて
書いてない。その如きは種々仙境
に類縁も三々三々つた竹竿な
くかつてこんで極と過すなどは
以ての外である。

委員
中村 源 (四回)
大坂北興 日立製糖所
委員
一柴 田 秀一 (八回)
大坂南區日本橋筋一丁目 長洋商会
委員
若月 登 (一五回)
大坂南區大學生

歩自歩だと思つたので遠慮なしに
上ることにした。
四疊半の真中に食卓を出して
その前に大入道が半裸体で胡坐を
かけてゐる。終考述に一寸足を曜
いてみたが立派に二本ついてゐる。
署いとみへて首にひつかけた手拭
でひつきりなしに顔や首筋をふい
てゐる。卓上の茶碗の飯がへつて
ぬない所を見ると食事前らしい。
「オーイ、まだかテー」と身体を
よじらせて奥口の方へ吸着る。入

吾輩は山の神の竹竿を伝つて井戸
の中へ降りていつた。
(つづき)

注連 輪 香 近古
先回委員として終戦後同窓会のために盡善を盡して
注連 輪香へ藤木工務店 北支那同窓会 戦時後工事現
場合計主任は、五月廿七日午前四時半工事現場におい
て縁故親戚中、右職事務のためネクタイをのまゝ急遽さ
れた。急遽第一号所託の現代の反逆性について一編が
図らずも同窓の遺稿となつた。
謹んで同窓の意を表すると共に同窓の御願を祈る次第
であります。

道の背中に腰をやつて横尾は中
さ出せうになつた。入道の背
中には金太郎が腰を相んでゐるら
しい刺青がしてゐる。何故らしいと
言つたかと訊ねるなら一寸入道の
背中を見たら分かるらしいといふ表現
が、正鵠を得てゐるものであるこ
とが判ると思ふ。背中の金太郎は
金太郎かつたのか痛さで辛抱しき
れなくなつたものか知らぬが金太
郎の上半身と腰としか出てゐる
い。だからまるで腰這ひになつた
金太郎が腰に抱きついてゐる様
子であつた。オーイ、なんて言ふ感
張つた声と背中の金太郎とではど
う考へてみたときバランスがとれ
ない。「悪いや、未か？」入道は半
分腰を考へて更に金太郎とのバ
ランスを破る積りが向ふ体差を
まみせた。「縄が切れだんです」と
と奥口から女の声が聞へるどうや
ら入道のいらだつ原因は奥口にあ
るらしいそこで入道の側を通つて
奥口へ出てみた。奥口に井戸があ
る。その井戸が山の神がまつてこ
きりと井戸の中を覗く(つづき)



編輯後記

おそれにおくれに同窓会報第二輯
をお手許に届けます。
御多忙中にも不拘玉稿を頂戴しました
諸兄諸姉に先ず厚く御礼申上げ出来
不出来は編輯子の責任、敢て皆様の
御批評を仰ぎ度いと思つてゐます。
相も度らぬ事ながら原稿にせめられ
予算にせめられ、あまつさへ身辺の
雑用にさいなまれて先程の高言にも
似ず御覽の通り。色々不満もあり改
善余地多々残してゐますが号を追つ
てとゝのへてゆきたいと思つてゐま
す不慮。

昭和二十四年九月一日印刷
昭和二十四年九月十五日發行

同窓会報

(非売品)

西宮市菊谷町四丁目 益地
編輯兼發行人 中島

大阪市東淀川区大隅通リ
印刷所 大阪経済大学同窓会
印刷部

大阪市東淀川区大隅通リ
發行所 大阪経済大学同窓会